

飼料用甘藷の貯蔵法に関する試験 (第2報)

満岡 勝*・甲斐光夫*・内村忠道*・足立照夫*

MAOKA, M. KAI, M. UCHIMURA, T. and ADACHI, T. Several
Methods of Ensilaging Sweet Potatoes for Feed (2)

前報において、甘藷に生澱粉粕を混合して貯蔵する方法を報告したが、更にその後、1) 甘藷と甘藷蔓サイレージ、2) 搗潰甘藷サイレージとして貯蔵する方法の試験を行なつたので報告する。

試験方法

1) 甘藷と甘藷蔓サイレージについて この方法は甘藷蔓を等量(重量比)に混合して詰込んで貯蔵する方法で、昭和32年11月13日に掘取つた甘藷を翌14日に水洗して、15日に甘藷をルートカッターで母指頭

大に細切し、甘藷蔓は2日間晴天下に日乾後約3cmの長さにエンシレージカッターで切断したものを、それぞれ800kgを混合して4人でよく踏圧しながら詰込み、上部を1.8m²のビニール幕で被い、押蓋を置いて375kgの重石をのせた。

2) 搗潰甘藷サイレージについて 本法は甘藷を搗潰してサイロに詰込んで貯蔵する方法で、昭和33年11月19日に掘取つた甘藷を翌20日に水洗して21日に搗潰機で生澱粉粕状に搗潰したもの2,700kgを踏込みを行なわないで詰込み、上部に生澱粉粕420k(厚さ

* 九州農業試験場

40 cm) を置いて 1.8 m² のビニール幕で被つて、押蓋を置き重石はしなかつた。供試した甘藷の品種はいずれも農林 1 号で、サイロは直径 1.2 m、深さ 2.4 m のコンクリート製半地下式の同一規格のものを用いた。

取り出しは、甘藷と甘藷蔓サイレージは、昭和 33 年 11 月 14 日、播漬甘藷サイレージは、昭和 34 年 10 月 12 日に行なつた。

試験成績

試験期間中のサイレージの温度は、表層より 45 cm 下のサイロ中央部で、毎日午前 10 時に測定した。5 日間の平均値は第 1 表の通りで、いずれも低温で経過した。

第 1 表 サイレージの温度経過

区 分	経過日数									
	5日	10日	15日	20日	25日	30日	35日	40日	45日	
甘藷と甘藷蔓サイレージ	18.3	10.0	17.6	16.0	14.7	16.0	14.4	13.0	8.9	
播漬甘藷サイレージ	10.0	10.4	10.5	10.0	10.0	10.0	10.1	10.0	9.1	

品質 甘藷と甘藷蔓サイレージは、サイロ内壁にそい輪状に腐敗していたが、その量は 43 kg であつた。播漬甘藷サイレージは、表面に 1.9 kg の腐敗が見られたのみであつた。

製品の総酸量 pH は第 2 表に示す通りで、双方共、家畜の飼料として充分給与出来得るものである。両製

品を当部繫養豚に給与した処、採食状況は良好であり、この給与による健康上の異状はみとめられなかつた。

製品の成分分析結果は第 3 表の通りであつた。

第 2 表 サイレージの総酸量及び pH

区 分	調査項目				pH	備考
	総酸	乳酸	醋酸	酪酸		
甘藷と甘藷蔓サイレージ	1.550	—	—	—	3.2~3.4	検測部位は中層
播漬甘藷サイレージ	2.108	1.466	0.585	0.054	3.6	

第 3 表 サイレージの成分表

区 分	成分							備考
	水分	粗蛋白質	粗脂肪	可溶性無窒素物	粗繊維	粗灰分		
甘藷と甘藷蔓サイレージ	71.26	2.45	0.91	19.94	4.04	1.40	分析部位は中層	
播漬甘藷サイレージ	56.58	2.13	0.71	38.84	0.91	0.83		

摘要 家畜の飼料用として甘藷の貯藏方法方法は、1) 甘藷と甘藷蔓サイレージ、2) 播漬甘藷サイレージとして貯藏可能な結果が得られ、その製品は家畜の嗜好もあり、給与による健康上の異常はみとめられず、充分家畜に給与出来るものが得られた。

生産された甘藷蔓を総て利用しようとする場合は、甘藷とは甘藷蔓サイレージの方法を用い、サイロ 1 基当りに、より多くの甘藷を貯藏しようとする場合は、播漬甘藷サイレージの方法を用いるが適当と思われる。